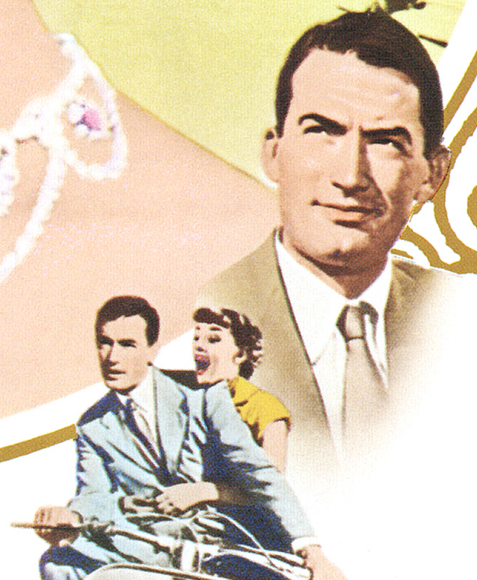




Roman Holiday

- * アカデミー 3 部門受賞
- アカデミー主演女優賞
- アカデミー原作賞
- アカデミー衣裳デザイン賞



オードリー・ヘプバーン
グレゴリー・ペック/エディ・アルバート

永遠の恋人オードリー輝きあふれるそのとき…生涯二度とない恋の名作!

ローマの休日

パラマウント映画
CIC配給

監督ウィリアム・ワイラー/原作アイアン・マクラレン・ハンター/撮影フランツ・F・プレナー/アンリ・アルカン/音楽ジョルジュ・オーリック

＊ビュティフル・ヘプバーン＊

「暗くなるまで待つて」以来、映画から遠ざかっているオードリー・ヘプバーンのデビュー作。オードリーはこの一作でアカデミー賞を獲得、その新鮮な魅力は大センセーションを巻き起こした。王女と新聞記者とのほろろ恋愛をコミカルに描いて、人生の哀別離苦をしみじみと味あわせる不朽の名作。共演の新聞記者には、知性美あふれる二枚目スター、グレゴリー・ペック（新・ガンヒルの決闘、カメラマン役）には性格俳優として知られるエディ・アルバート（ニューマンという男）が扮している。

監督は「ミニヴァー夫人」と「我等の生涯の最良の年」で二度アカデミー賞を受賞しているウィリアム・ワイラー。撮影は故フランツ・ド・グレンナとアンリ・アルカン、音楽はジョルジュ・オリリック。衣装はこの作品も含めてアカデミー賞七回受賞というイデリス・ハントもアカデミー賞を受賞している。この映画は三つのアカデミーを受賞している。

＊おはなし＊

イタリアの首都ローマのある小国の大使館の大広間では、アン王女（オードリー・ヘプバーン）の公式会見が行なわれていた。王女はにこやかに、いねいなことばで、各国大使、外交官、政界財界の大立物とあいさつをかわしている。まだ二十とあいはかりの王女は、若さにあふれ、まばゆいばかりの気品に満ちている。だが長いスカートの下にかくれた足を、靴をぬいてはモゾモゾ動かした足音を、靴をぬいてはモゾモゾ動かしなかつた。

アン王女のローマ訪問は、ヨーロッパ各国を親善旅行に歩いている途中のことだった。公式スケジュールがぎつしりつまっている毎日に、王女は疲労の色をかくせないらしい。公式の席は立派になると、さすがに神経はいら立ち、待従のものたちをハラハラさせていた。少々神経衰弱気味になつてしまった。待医のすすめて、翌日の日程は取り消され、一日休養することになった。

行きかう人々は、アン王女だとは気づかないらしい。王女は、いつしか町の中心にあるスペイン広場にきていた、道ばなのベンチにくつたりとした体を横たえてしまった。

折よくそこを通りかかったのは、アメリカの新聞記者ジョー・ブラドリー（グレゴリー・ペック）である。若い娘がベンチにくつたりして居るのを見て、事情を聞いてやろうと抱き起こした。しかし娘は、しきりうと抱き起こして眠ってしまった。服装はきちんとして居るし、顔立ちにも気品があるところを見ると、良家の娘としか思えない。ほつておくわけにもいかず、ジョーはその娘を下宿に連れ帰り、ベッドに寝かせてやった。

朝の新聞で一夜の泊まり客がアン王女であることを知ったジョーにとつては、願つてもないことだ。特ダネをつかむ絶好のチャンスだ。彼はローマ案内をすすんでひき上げた。同僚のカメラマン・アービング・ラドビッチ（エディ・アルバート）にだけは事情を話し、ほかから自由に楽しんでいるアン王女の姿を、フィルムにおさめるように頼んだ。

アン王女はジョーにこんなことがあるとも知らず、床屋に寄つて長い髪をバツサリ短くカットさせた。気分を新たに、庶民になつたつもりでアン王女は、自由の気分は体じゅうに流れこんでいた。その姿をアービングが隠しもつた小型カメラで、撮っていたことは言うまでもない。そのスナップの二つは、ことごとく、とびきりの特ダネである。

一方、大使館では王女の失跡を知つて、上へ下への大騒ぎになつていて、しかし体面を思えば、ニュースとして発表することもしない。本国から十数名の秘密探偵を呼びよせ、王女の捜索にあたらせてた。

ROMAN HOLIDAY

ローマの休日

映画を楽しみながらローマ見物

☆スペイン広場

都会の広場としては世界でもっとも美しいものの一つで、中央に「ベルニニの泉」と呼ばれる泉水がある。広場から「スペイン階段」という石段をのぼると十五世紀に建てられた「トリニタ・ディ・モンテ教会」の塔がそびえている。コロッセウムのさしかけて花を売っている屋台が美しい色どりになつていて、この広場が「終着駅」のエピソードにあらわれたことはご存じである。ここでオードリー・ヘプバーンの王女がアイスクリーム・コーンを食べるほほえましい情景が演じられる。

☆トレヴィの泉水

ローマの商店街の中心からすぐ近くにある。紀元前十九年からの歴史があり、この映画のものは十八世紀の終りに完成された。

☆アピア街道

紀元前三一二年に軍用としてつくられた道路で、松並木が美しい。本来なら馬車でゆくり見物するところだが、ベックとヘプバーンがこの道にモーター・スクーターを走らせる。

☆祈りの壁

第二次大戦のとき、四人の子供を連れた男がここで空襲にあい、逃げ場を失つて神に祈つた。爆弾はこのへん一たいに投下されたが、奇蹟的に命が助かり、祈りがとげられたお札に小さな額をかかげた。その話がしたいにひろまり、いまでは旅行者がかならず訪れる名所になつて居る。

☆コロシウム

「グッ・ヴァーデイス」などでおなじみの闘技場である。キリスト教徒がここでライオンの餌食になつたエピソードは知らぬものがあるまい。

☆真実の口

六世紀に建てられたサンタ・マリア教会の入口にある。半人半魚の海神トライトンが口をあけていて、嘘を云っているものが口に手を入れると噛みとられるという伝説がある。ヘプバーンとベックはどっちも身分を隠しているの、はたして手を噛みとられるかどうか、それは映画を見るまでのお楽しみとしておこう。

☆マルグッタ街

古くから芸術家の集まる町として知られていて、十七、八世紀の建築が当時のままに残っている。ベックのアメリカの新聞記者はこの町に住んでいる。

☆カフェ・グレコ

「スペイン広場」と「マルグッタ街」にほど近いところにあるカフェ。一七〇〇年代以来の店で、シェリー、キーツ、バイロン、ビゼー、ワグナー、リスト、ゲートなどもこの店の客だった。アメリカ人ではマーク・トウェインとパット・ファロー・ビルがこの店に立ちよつて記念の筆蹟を残している。

☆フォオラム

古代ローマの時代に集會が行われた場所。シーザーとその甥（おい）のオーガスタスの時代に完成されたものと云われ、幾多の戦乱に破壊されたが、いまだに当時の面影が残っている。ヘプバーンとベックとともに観客はサタン・ウェスバシアン・ロマラスなどの寺院や「十二神の柱廊」の遺蹟を見ることが出来る。

☆コロナ宮殿

はじめて映画に撮影されたもので、貴重な調度その他のためにパラマウントは毎日百万ドルの保険をかけたといわれている。

☆プランカチオ宮殿

ヘプバーンの王女が謁見式を行う場面に使われている。もとナポリの王族だったものが住んでいた宮殿である。

次回ロードショー！

特別鑑賞券¥1,000絶賛発売中！
(一般¥1,300・学生¥1,100)の処

日比谷 スカラ座
(591) 5355

新宿ロマン劇場
(351) 2941